

梯川水系梯川河川整備計画基本方針の概要

（平成20年6月11日 官報告示）

国土交通省 北陸地方整備局

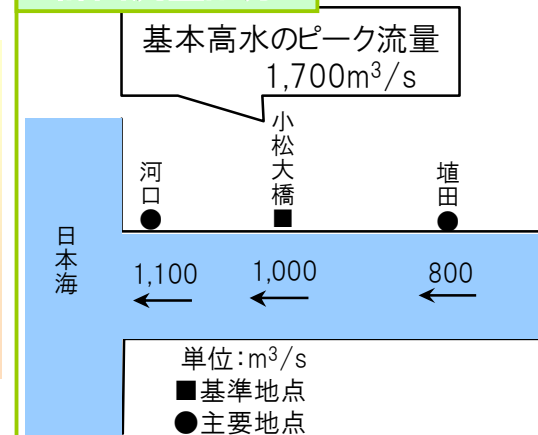
目次

- (1) 災害の発生防止又は軽減・・・・・・・・・・ 1
 - (2) 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持・・・ 3
 - (3) 河川環境の整備と保全・・・・・・・・・・ 4
-

(1) 災害の発生防止又は軽減 1

- 都市計画決定により地域の街づくりと一体となった引堤を進めており、市街地における再引堤が困難であることから小松大橋地点において $1,000\text{m}^3/\text{s}$ とする
- 基本高水のピーク流量の $1,700\text{m}^3/\text{s}$ との差分 $700\text{m}^3/\text{s}$ は、既設洪水調節施設の有効活用及び新規洪水調節施設等により対応。

計画流量配分



河道の改修

- 社会的影響、河道の安定等を総合的に勘案し、引堤及び河道掘削等による河積の増大、堤防強化等を実施し、計画規模の洪水を安全に流下させる。



洪水調節施設

- 河道で処理できない流量については、既設洪水調節施設の有効活用及び新規洪水調節施設で対応。



内水対策

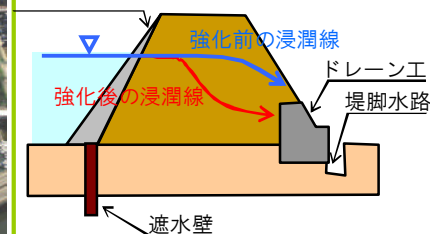
- 下流部は、山間地と海岸砂丘に囲まれた低平地が広がり自然排水が困難なことから、関係機関と連携・調整を図りつつ、内水対策を実施。



質的整備

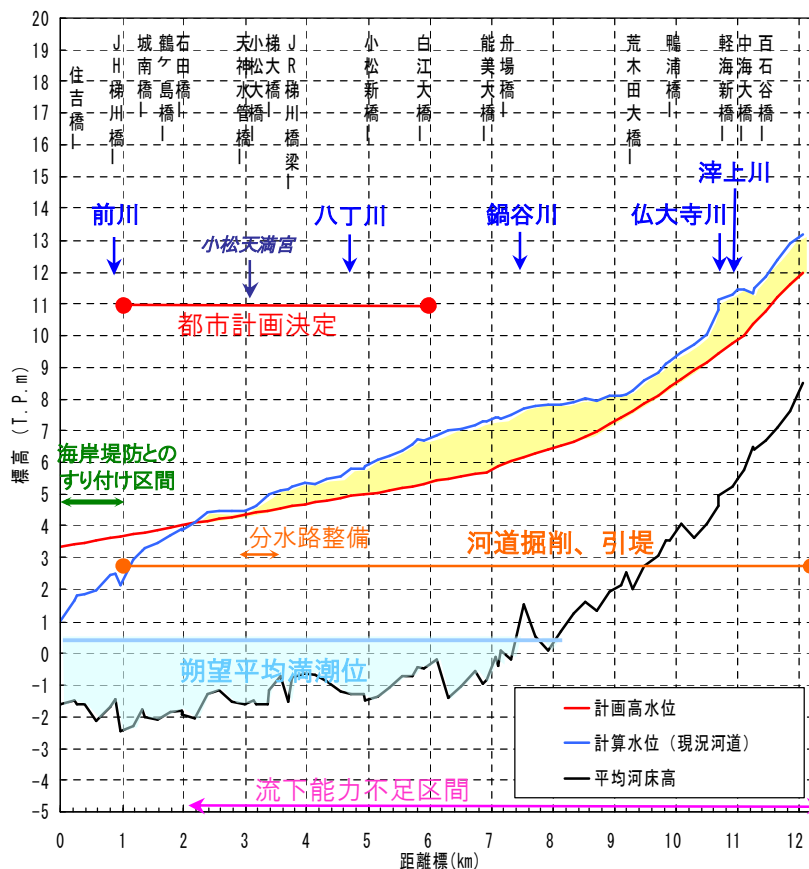
- 浸透に対する堤防の安全点検の結果、浸透による堤防の破壊が懸念される箇所において質的強化対策を実施

堤防の質的強化のイメージ図



(2) 災害の発生防止又は軽減2

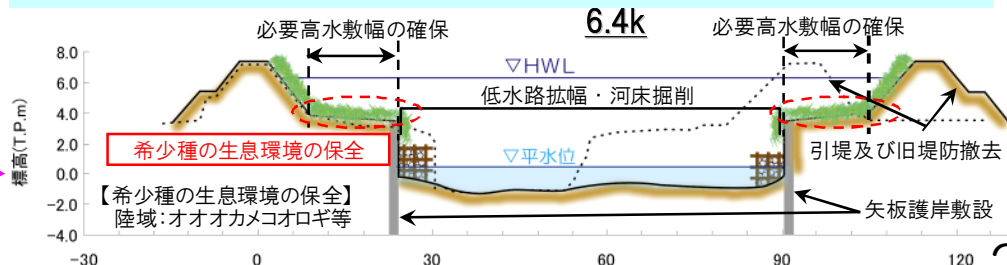
- 2.2kmより上流は河積不足のため流下能力が不足
- 堤防防護に必要な高水敷幅を確保し、河道の安定等を考慮した河道掘削や樹木伐開等により流下能力を確保
- 小松市街地区間は、平成11年に都市計画決定され、文化財との調和を図りつつ、道路整備、家屋移転などの街づくりと一体となった河川改修を推進



小松天満宮神門
国指定重要文化財
昭和36年6月指定



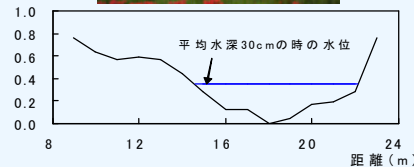
- 河道掘削にあたっては、河床の安定や既設構造物への影響、希少種の生息環境の保全等を勘案した掘削を実施
- 感潮息においては長期的な河道の安定や維持に配慮するとともに粗朶沈床等の多自然護岸を施すことにより多様な水環境へ配慮



(3) 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持

- 流水の正常な機能の維持のため必要な流量(正常流量)は、埴田地点において、4～6月及び10～11月では概ね $1.4\text{m}^3/\text{s}$ 、12～3月では概ね $2.3\text{m}^3/\text{s}$ 、それ以外の時期では概ね $1.1\text{m}^3/\text{s}$ とする。
- 広域的かつ合理的な水利用の促進を図るなど、関係機関と連携して必要流量の確保に努める。

①動植物の生息地・生育地の状況
【荒木田大橋下流の瀬9.1k】
ウグイ、アユの産卵及びバスケの移動等のために必要な流量を算定
(必要流量 $1.4\text{m}^3/\text{s}$)

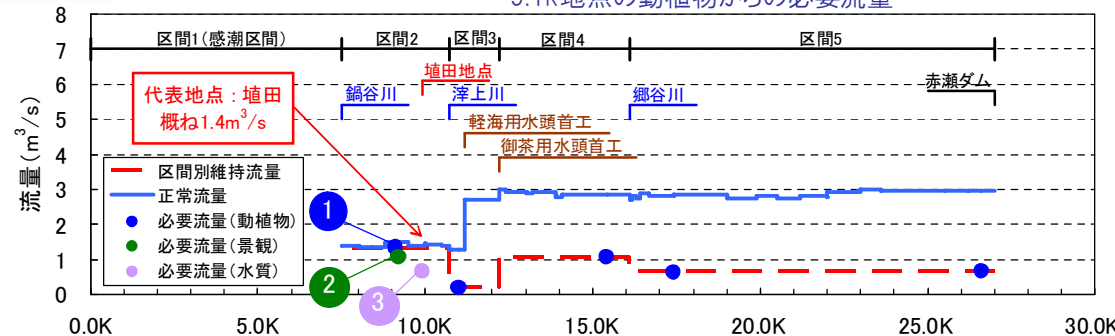


かんがい期
(4月～6月)

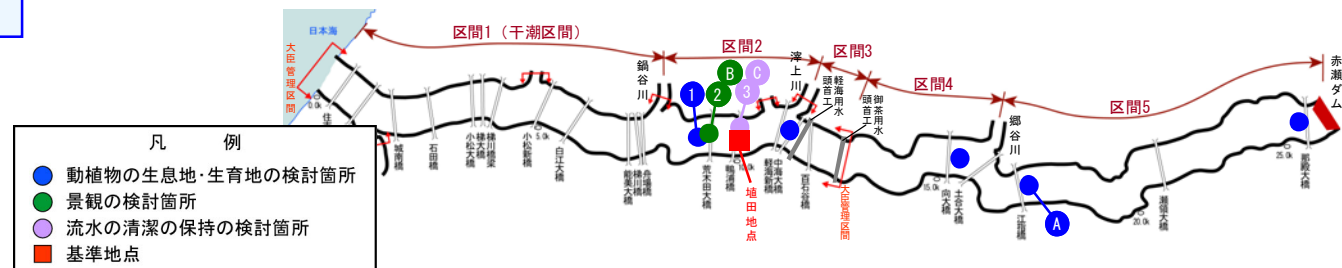
正常流量 概ね $1.4\text{m}^3/\text{s}$

維持流量 $1.4\text{m}^3/\text{s}$

9.1k地点の動植物からの必要流量



※梯川の過去20年間(昭和62年～平成18年)の埴田地点における、10年に1回程度の規模の洪水流量は約 $0.95\text{m}^3/\text{s}$ である。



梯川の正常流量の概要

(4) 河川環境の整備と保全

- 中流部は、ウグイ、アユ等の産卵場となる瀬・淵が連続する河床形態、オオヨシキリが生息するヨシ原、ワスレナグモ等が生息する河川敷等の草地環境など多様な河川環境がみられることから、河川改修にあたってはこれらの保全に努める
- 下流部は、セイタカヨシ等が感潮域の多様な水際に生息していることから、河川改修にあたっては粗朶沈床等の多自然護岸等により多様な水際を創出するとともに、ヨシ帯やオオオカメコオロギ等が生息する草地環境の保全に努める。



瀬・淵



オオヨシキリ



感潮域の多様な水際

